



スマート農業導入調査へ

相浦農地活用問題で市長

佐世保市議会

佐世保市の相浦土地改良区が所有し長年活用されていない広大な農地について、朝長則男市長は10日の定例会で、先端技術を使った「スマート農業」を導入して活用できないか調査する方針を示した。

田山藤丸議員（自民市民会議）の一般質問に対する答弁。

農地は約40畝。県や市などが約20億円を投じて整備したが、大半が牧草地で活用されていない。2004年、大型商業施設の誘致計画が持ち上がったが、中心

商店街などが反対し、市は転用を認めなかった。土地改良区は今後も活用が見通せないとして22年春までに解散する方針。

朝長市長は「市内でも特に優良な農地であり、農業振興地域としての活用が基本。先端技術の活用を視野に入れた振興の可能性を調査研究する」と述べ、活用を求める地元住民らとも連携する考えを示した。

田山議員は、近隣にある老朽化した市総合グラウンドを農地へ移設できないかと提案。吉田敏之農林水産部長は「国や地方自治体が建設する場合は法的に（農地転用の）許可は不要」と

しつつも「公共政策としての必要性、妥当性が前提条件となる。現状では難しい」との認識を示した。

（田下寛明）

【佐世保市議会 令和2年12月定例会一般質問 12月10日 田山藤丸】

1. デジタル環境の整備について
 - 市内公共施設のインターネット環境の整備について
 - 情報通信基盤（光インターネット）の整備について
 - 若者の声を市政に反映する機会づくりについて
2. アフターコロナの新しいまちづくりについて
 - 相浦土地改良区の現状と今後の可能性について